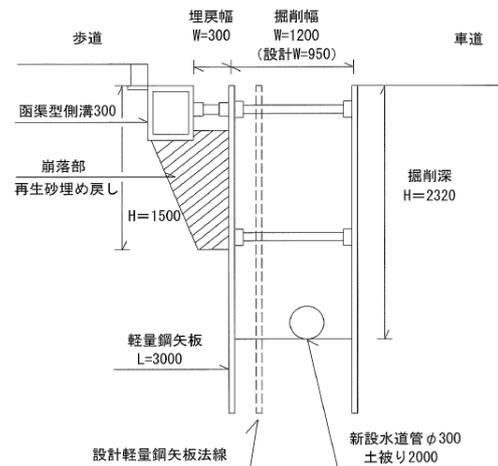


公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成 30年 6月 6日(水曜日) 12時 55分			工事関係者区分	元請け
事故区分	陥没	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	道路陥没			事故レベル	I	休業見込日数	
工事概要	配水管布設工事						
事故概要	夜間施工にて配水管を布設し、仮舗装を行い交通開放していたが、数日後に道路陥没が発生した。						
事故原因	配水管を布設するために土留め工を施工していた際に、既設側溝側の地山が崩壊したため、崩壊箇所を埋戻し、軽量鋼矢板を撤去後に再転圧を行い仮舗装して交通開放していたが、既設側溝の下部までに十分な埋戻し及び締固めができず、通過車両の影響で道路陥没が発生した。						
改善策	安全訓練を行い下記の事項を実施することとした。 ・埋戻しの際は、現場状況に応じて水締め等を行い、空隙を生じないように十分注意して施工する。 ・夜間作業では、作業開始時及び終了時、また終了時の朝に前日までの仮舗装箇所の安全巡視を行う。 ・始業時のKY活動において、作業内容や注意事項などを説明し、作業員全員に安全管理の意識付けを行う。						

事故状況図



改善状況図



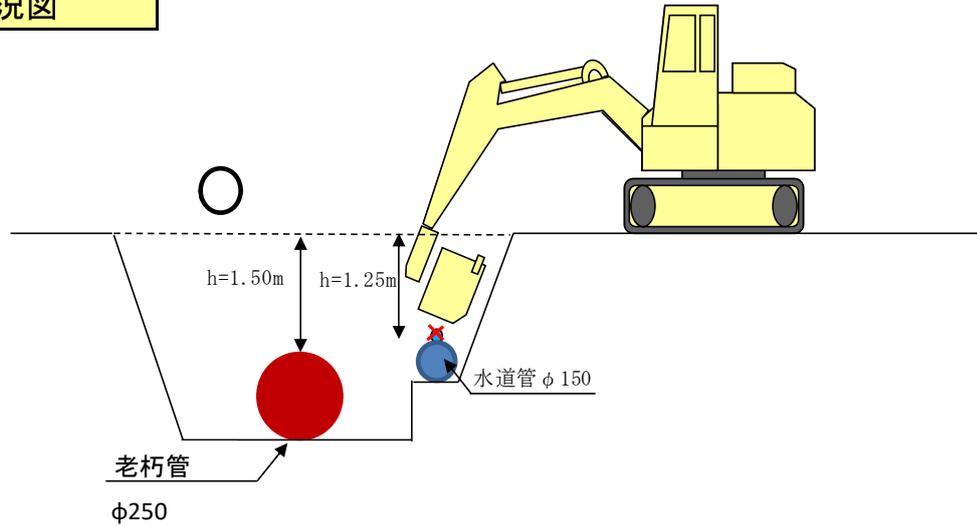
安全訓練において下記の事項を実施することとした。

- ・埋戻しの際は、現場状況に応じて水締め等を行い、空隙を生じないように十分注意して施工する。
- ・夜間作業では、作業開始時及び終了時、また終了時の朝に前日までの仮舗装箇所の安全巡視を行う。
- ・始業時のKY活動において、作業内容や注意事項などを説明し、作業員全員に安全管理の意識付けを行う。

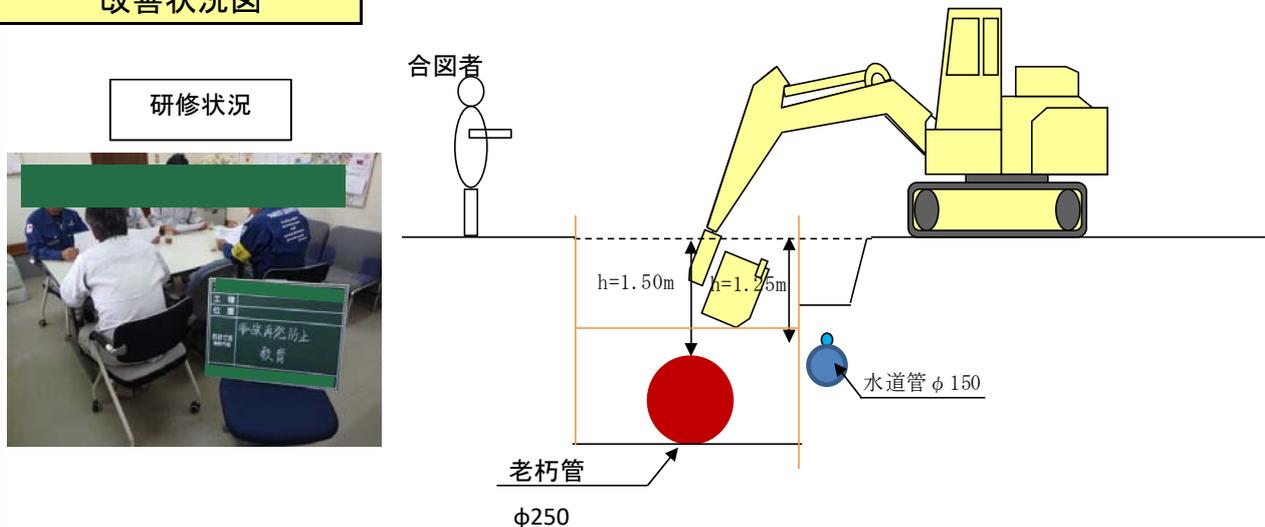
公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年6月4日(月曜日) 9時 15分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	分水栓を破損			事故レベル	(技術監理課で記入)	休業見込日数	—
工事概要	老朽管の布設替工事						
事故概要	水道管を目視できない状態で防護措置も行わず、合図者もいない状態で機械掘削を行い、分水栓を破損させた。						
事故原因	<ul style="list-style-type: none"> 地下埋設物に防護措置を行っていなかった。 合図者がいない状態で重機を操縦していた。 						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 地下埋設物管理者と防護措置について十分協議を行い、作業従事者に周知を徹底する。 重機を操縦する場合は、合図者を置く。 						

事故状況図



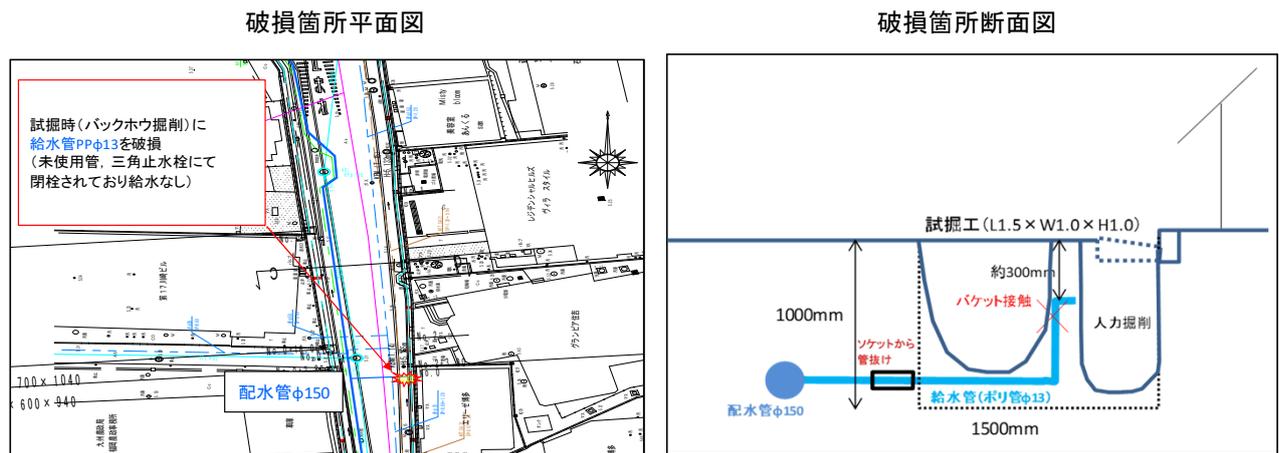
改善状況図



公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年6月14日(木曜日) 9時35分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢		業種区分	土木
被災程度	給水管φ13mm			事故レベル	I	休業見込日数	
工事概要	下水道工事(側溝)						
事故概要	給水管埋設位置を目視による確認を試掘調査で行うため、機械掘削をした際に、給水管を引き上げ接合部を破損したものの。						
事故原因	浸透側溝を布設する幅程度を人力掘削で路面から1.0m下がりまで掘削したが当該給水管は確認はできず、残りの試掘部分には給水管が無いだろうと下請責任者が安易に判断し、機械掘削を行ったこと。 また、作業前に現場責任者が作業従事者及びオペレーターに人力掘削で行うよう周知したが、不徹底であったこと。						
改善策	安全意識の向上を図る研修を行い、日々のKY活動時に、地下埋設物の位置の指差し確認を行う等、作業従事者全員への周知方法を改善し、再発防止に努めた。						

事故状況図



改善状況図



再発防止研修

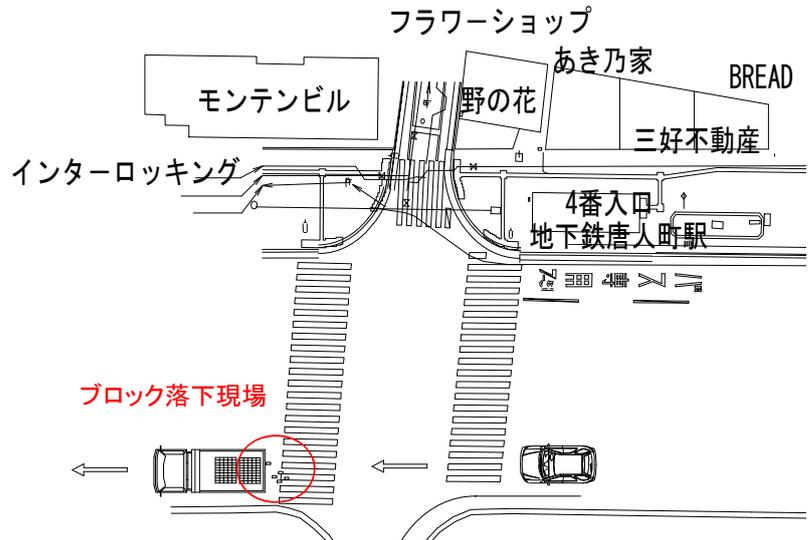


KY活動時の周知

公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年6月21日(木曜日) 0時 50分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	車両・自転車等損傷	性別	—	年齢		業種区分	土木
被災程度	フロント部のアンダーカバー損傷及びフォグランプの不具合。			事故レベル	I	休業見込日数	
工事概要	配水管布設工事						
事故概要	歩道舗装のインターロッキングブロック(ブロック)を撤去し、パレット上に積み並べて荷崩れ防止のラッピングを行い、ダンプトラックの荷台に積み込んだ後、一部のブロックをバラで積荷の上に載せた状態で走行していた際に、荷台からバラ積のブロックの一部が落下し走行していた一般車両が乗り上げ、車のフロント部を損傷させた。						
事故原因	ダンプトラックに積み込む作業では、荷崩れや荷こぼれ等を起こさないようにラッピングで防止策を講じて運搬作業を行っていたが、作業責任者による積荷の固定状況等の点検や荷台への積み下ろし時の指示、確認が不十分で、積荷の上にブロックをバラ積みで載せたため。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 作業関係者で、事故防止対策について緊急安全研修を実施した。 ラッピングが容易に崩れないよう防護の強化を行った。 						

事故状況図



改善状況図



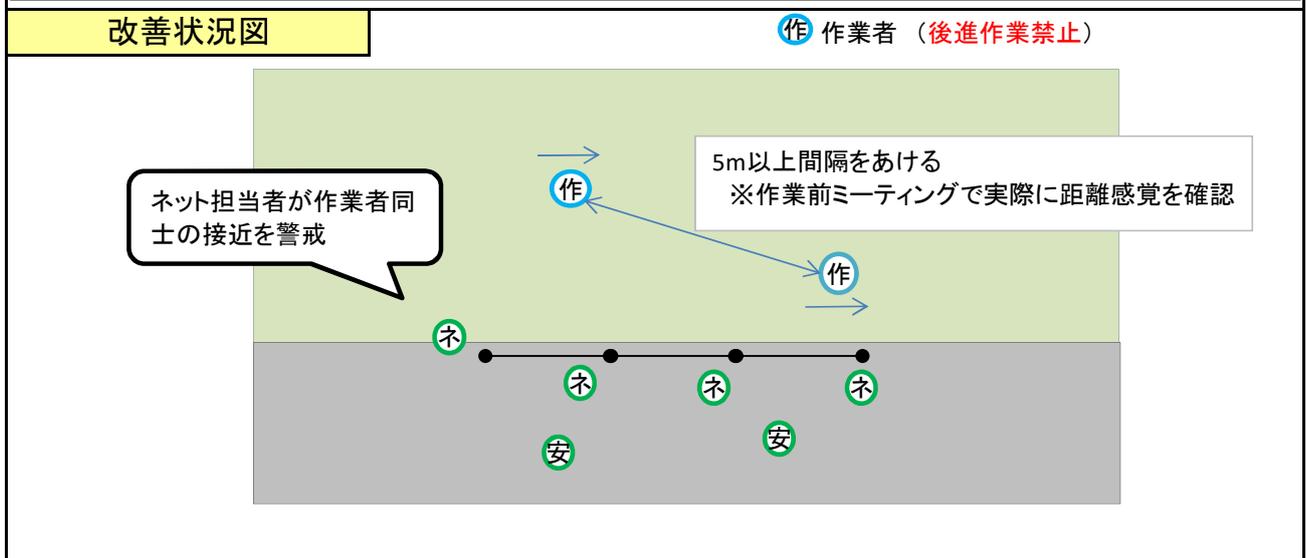
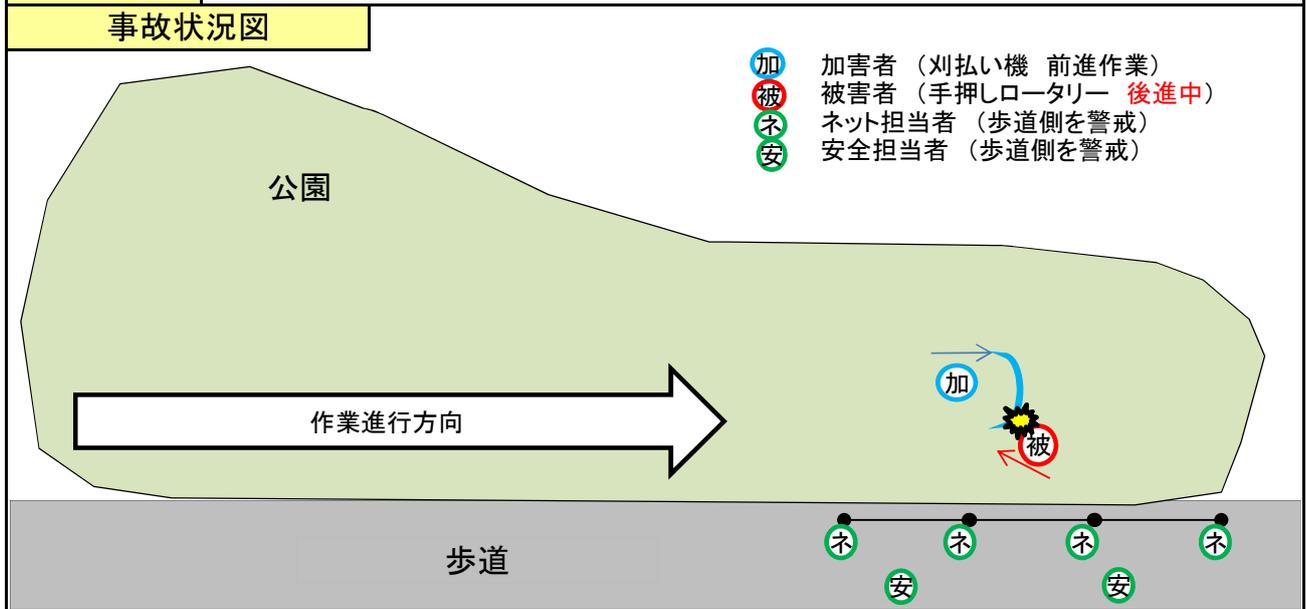
搬送時のさらなるブロック防護状態



[ブロック落下破損事故について緊急安全研修の実施]ロッキングブロック搬送中落下による車両破損事故についての事故防止対策について、

公共工事等事故情報

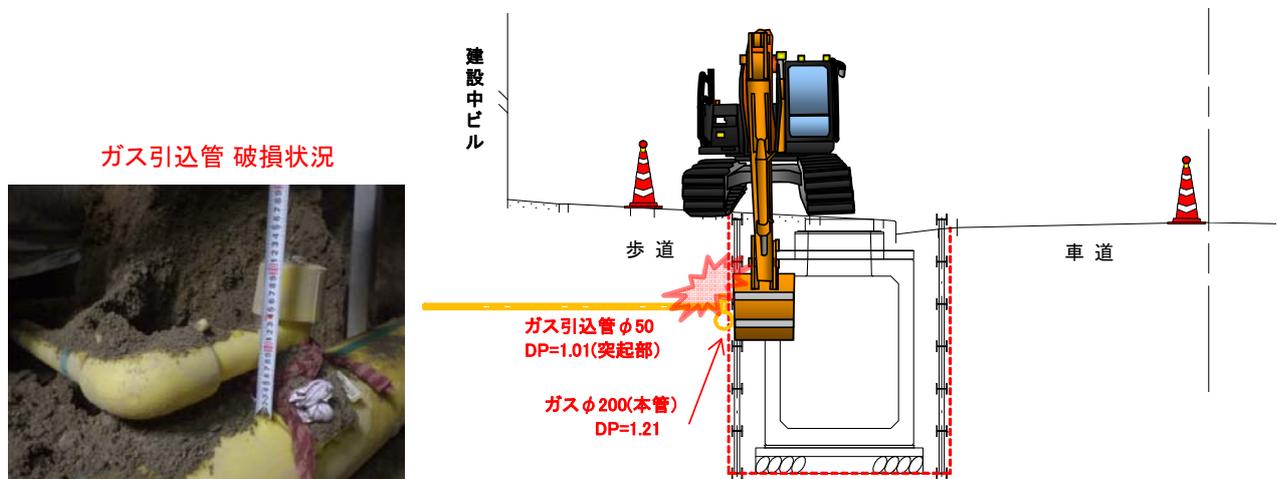
事故分類	労働災害	発生日時	平成30年6月25日(月曜日) 8時 45分			工事関係者区分	元請け
事故区分	工具等取扱	性別	男性	年齢	76	業種区分	土木
被災程度	左足首切創(8針縫合)			事故レベル	Ⅱ	休業見込日数	7
工事概要	公園内除草清掃業務						
事故概要	除草作業で使用していた芝刈り機を作業員が後進した際、後方で作業を行っていた刈払機の刃が左かかとに当たり受傷						
事故原因	除草作業で使用する機械の近接作業は、作業前のチェックシートに作業員との接触防止する離隔(5m)を定めており、作業前のミーティングで作業従事者に現場責任者から周知して作業を行っていたおり、除草作業に当たり、飛石防止用のネットや公園利用者や通行人等の安全管理を行う安全担当者を配置していたが、作業員の作業状況を監視しるところまでは行き届かなかったことと、芝刈機を使用していた作業員が後方の確認を行わずに後進したことが原因						
改善策	刈払機を使用する日の作業前ミーティングにおいて、毎回5mという距離を作業員全員で実際に確認する。実際の草刈り作業においては、ネット担当者の中から作業員同士の接近を警戒する者を指名し、作業員同士の接近を客観的に確認する。作業員同士の接近を監視する者を、飛散防止ネット担当者から指名し、客観的な目で接近を防止する。除草作業時は原則後進禁止とし、やむを得ず後進する際は後方確認を徹底する。樹木等の障害物が多い場所でのロータリーを使用禁止とする。各作業前ミーティングにて安全な距離(5m)を確認する。刈残しの判断を個人で行わず、リーダーが判断し刈直しの指示を行う。						



公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成 30年 6月 25日(月曜日) 22時05分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	埋設物等損傷	性別		年齢		業種区分	土木
被災程度	ガス供給管 φ50の損傷			事故レベル	I	休業見込日数	
工事概要	電線共同溝建設工事						
事故概要	特殊部(管理人孔)の立坑をバックホウで掘削中に、ガスの供給管を損傷した。						
事故原因	<ul style="list-style-type: none"> 重機のオペレーターや作業従事者に、埋設物に近接して機械掘削を行う場合の隔離の周知が不十分だった。 当該供給管の布設情報を監督課より提供されていたにも関わらず、認識がなかった。 事前の調査時には、当該供給管の接続はなく、立坑築造までの期間に当該供給管が布設されていた認識もなく当該施工現場の状況変化に気付かず機械掘削をした。 						
改善策	<p>【作業区分の隔離の見直しについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地下埋設物の近接作業では、人力にて深さ20cm程度縦横断方向に布掘り(1次掘削)を行い埋設物の確認を行う。埋設物の存在が確認されなければ人力にて確認した範囲・深さを機械(2次掘削)にて掘り進め点での確認ではなく、線での確認を行う。 <p>【日々のKY活動において】</p> <ul style="list-style-type: none"> 再掘削箇所については、埋設標示テープ1段目を正規の位置に2段目を路盤下に設置する。 新たな埋設物情報を埋設物台帳に追加記載し、更新日管理表にて最新版の台帳である事を確認する。 最新版の台帳をもとに作業計画書に当日掘削箇所の埋設物情報を記載し、朝礼時に配布作業員全員に埋設物情報を共有し周知する。 埋設標示看板(占用業者名・土被り記載)を地下埋設物真上に設置し作業員全員に埋設物の存在を見えるようにする。 						

事故状況図



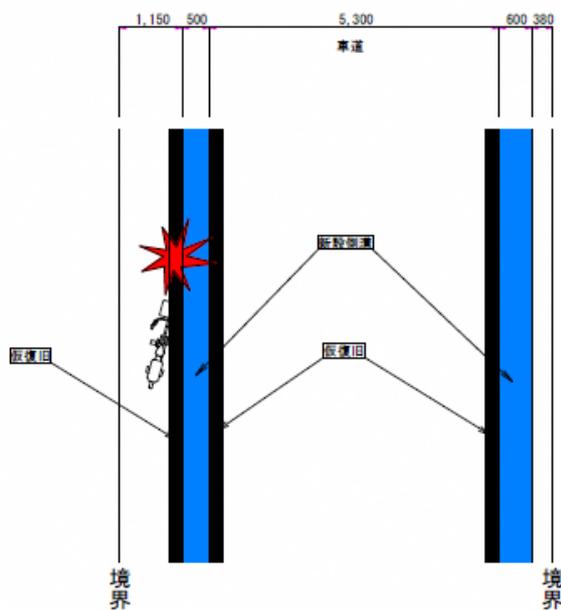
改善状況図



公共工事等事故情報

事故分類	死傷公衆災害	発生日時	平成30年6月25日(月曜日) 8時30分			工事関係者区分	元請け
事故区分	第三者人身	性別	女性	年齢	60代	業種区分	土木
被災程度	左手首及び左膝の擦り傷, 打撲			事故レベル	Ⅱ	休業見込日数	なし
工事概要	自由勾配側溝布設工						
事故概要	側溝の掘削部を埋戻した後に仮舗装を行い交通開放していたが, 被災者が自転車で通行していた際に, 側溝と仮舗装との段差でハンドルを取られ, 転倒し負傷したものの。						
事故原因	<ul style="list-style-type: none"> 掘削部の埋戻し土及び仮舗装の転圧が不足していた。 安全巡視が不十分だった。 						
改善策	日々の作業前と作業後に, 複数の作業員で作業場内の安全巡視を行うこととした。						

事故状況図



平面図



状況写真

改善状況図



作業前安全巡視

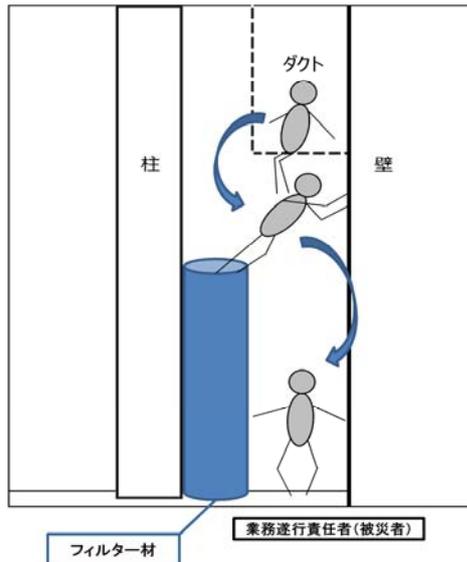


作業後安全巡視

公共工事等事故情報

事故分類	労働災害	発生日時	平成 30 年 6 月 25 日(月曜日) 10時00分			工事関係者区分	元請け
事故区分	その他	性別	男性	年齢	48	業種区分	土木
被災程度	右足かかと複雑骨折			事故レベル	Ⅱ	休業見込日数	3ヶ月
工事概要	構造物点検						
事故概要	地下鉄大濠公園駅において構造物の点検の為、部屋に立ち入る際、鍵がなかった為、高さ2.3mのダクトから飛び降りて入室し右足かかとを負傷した。						
事故原因	<ul style="list-style-type: none"> ・ダクトが立ち入り禁止区間である認識がなかった。 ・危険予知能力の欠如(無意識行動)と安全意識の低下による、不安全行動(大丈夫だろう)。 ・天神管区駅からの鍵の借用を怠った。 						
改善策	<p>○教育訓練を実施し下記項目を行うこととした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅検査で用いる事故防止チェックリストを作成する。 ・管理技術者による定期的な安全教育を行う。 ・当該ダクトに立入禁止張り紙設置。 ・不安全行動、計画外行動は絶対にしない。 ・災害の大小を勝手に判断しない。 ・事故が生じないように様々なリスクを想定し、現場従事者全員が災害しないよう、安全講習及びKY活動の徹底。 ・安全管理者を配置し、定期的に現場パトロールを実施し不安全行動の防止を図る。 ・取組状況は、管理技術者がチェックし発注者へ報告を行う。 						

事故状況図



改善状況図

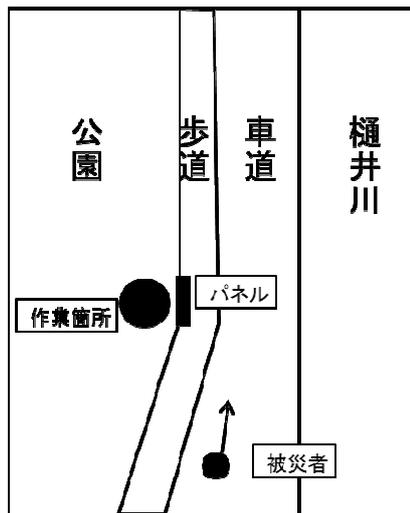
教育訓練実施

貼紙設置

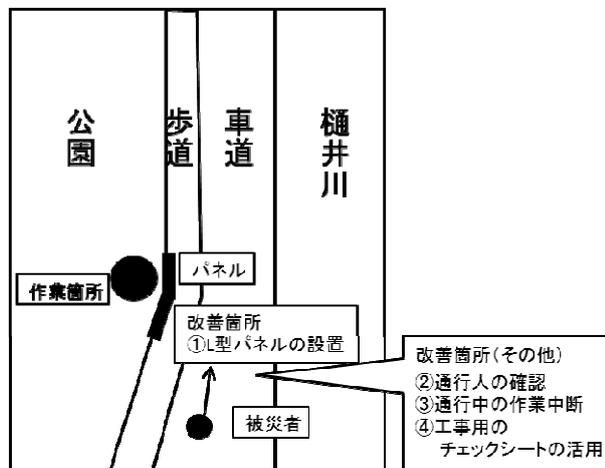
公共工事等事故情報

事故分類	死傷公衆災害	発生日時	平成30年6月28日(木) 10時55分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	第三者人身	性別	男性	年齢	不明	業種区分	土木
被災程度	左のこめかみを負傷			事故レベル	Ⅱ	休業見込日数	
工事概要	福岡市中央区地行2丁目地内 除草作業						
事故概要	公園内を肩掛け式草刈り機にて除草作業中に、飛石し、公園前の道路を自転車で通行していた歩行人のこめかみにあたり負傷させたもの。						
事故原因	歩行者の確認や飛散対策(作業中断等)が不十分なことや防護パネル設置が不足していたこと。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・飛散防止で使用していたパネルを大型のネットで、中折りできるタイプを、状況に応じて使用する。 ・安全チェックシートを作成し、作業従事者全員の安全意識を向上させるよう取り組みを行った。 						

事故状況図



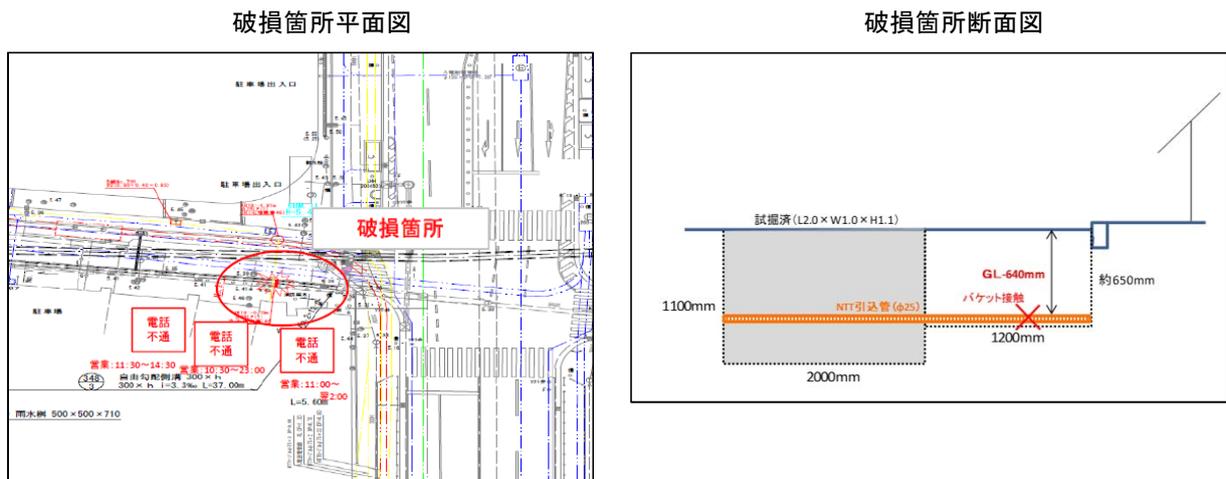
改善状況図



公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年6月30日(土曜日) 0時50分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢		業種区分	土木
被災程度	NTT引込管φ25mm			事故レベル	Ⅱ	休業見込日数	
工事概要	下水道工事(側溝)						
事故概要	側溝布設に伴う掘削作業中に、NTT引込管を破損したものの。						
事故原因	作業開始前に作業従事者に、現地で地下埋設物の布設状況や埋設物に近接して機械掘削を行う場合の離隔等の作業手順を周知していたが、重機のオペレーターや合図者が地下埋設物への注意不足であったことと、地下埋設物への危険予知や安全意識が低かったこと。						
改善策	安全意識の向上を図る研修を行い、日々のKY活動時に、地下埋設物の位置の指差し確認を行う等、作業従事者全員への周知方法を改善し、再発防止に努めた。						

事故状況図



改善状況図

